

令和 4 年 6 月 25 日現在

機関番号：32616

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00913

研究課題名(和文) 出雲国造北島家文書の総合的研究

研究課題名(英文) Rsearch old document of The Kitajima Kokusou family

研究代表者

藤森 馨 (Fujimori, Kaoru)

国士舘大学・文学部・教授

研究者番号：50291000

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：昭和47年に重要文化財に指定されている北島国造家の306通の古文書を調査し、誤記や誤読を修正することができた。この調査の一環として、当主以外は入ることの許されない土蔵に入った際に、棚や箆笥に重要文化財以外の古文書が入っていることがわかった。それらを調査してみると、150点ほどの新出文書が発見され、解読したところ、いずれも優れた中世文書及びその写しであり、中世出雲地方の実態解明に役立つものであることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この度の研究は、単なる出雲大社の研究だけでなく、出雲地方の尼子氏の活動や毛利氏の活動がうかがえ、どのような統治が行われていたかを具体的に知ることができた。今後の出雲地方の研究に裨益すること大なるものと考えられる。また国造家の祭祀については、火継神事という国造交代の際神事について多くの知見を与えることができた。また、これまで近世以上には遡及できないといわれてきた新嘗会が、応永三十五年まで遡って確認されたことは大きい。古代からのものかは今後の研究を俟たなければならないが、火を尊重する神事は中央の祭祀と密接に関わっていると、考えられる。

研究成果の概要(英文)：We were able to correct errors and misreadings by researching 306 old documents of the Kitajima Kokusou family, which were designated as Important Cultural Properties in 1972.

As part of this research, when we entered the storehouse, which only the head of the family is allowed to enter, we discovered that there were ancient documents other than Important Cultural Properties on shelves and chests. Upon examining them, we discovered about 150 newly discovered documents, which we deciphered and found to be excellent medieval documents and their copies, which are useful for clarifying the actual condition of the Izumo region in the Middle Ages.

研究分野：日本史

キーワード：中世文書 出雲国造 出雲大社

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、平成 29 年 (2017) に研究代表者藤森に、現北島家当主健孝氏から自家の文書の調査を依頼されたことに始まる。

昭和 31 年 (1956) 村田正志氏が調査された出雲国造北島家の古文書は、429 通を精選し、『出雲国造家文書』(清文堂)として昭和 47 (1972) 年に刊行されている。その中で、306 通の文書が重要文化財に指定され、同時に文化庁の斡旋により表装成巻された。当初、この表装された卷子本を再度調査し、当時のマイクロフィルムを使用した読み取り技術では解読しえなかった紙背文書などを明らかにしようとして、本研究を始めた。

2. 研究の目的

「出雲国造北島家文書の総合的研究」と題し、出雲国杵築大社(以下、出雲大社と称する)の祠官家として著名な北島家伝来の古代から中世に及ぶ古文書 306 点について研究することを初期の目的とした。その成果として、従来地方史・地域史の中で評価されてきた出雲国造北島家の歴史を、改めて日本史の立場から評価し直し、古代のみが注目されがちな出雲大社を中世まで拡げて見ることを最終の目的とした。

3. 研究の方法

出雲国造北島家文書全点を研究代表者・分担者・協力者全員が実見・熟覧するとともに、デジタルカメラなどにより写真撮影を行い、文字情報はもちろん料紙・筆跡といった情報を含めた当該古文書のデータベース全てを収集する。その上で集積されたデータをもとに、現物を前にした全員参加の研究会を数回開催し、その研究成果を『出雲国造北島家の研究』(仮題)なる論文集として刊行する。

また新出文書 150 点を確認し、島根県立古代出雲歴史博物館の学芸員の協力を得て、地元の人間にしかわからない地名や人名の特定作業を行った。

コロナ禍により現地へ行くことが困難となった時期には、共同研究者及び北島家とオンライン会議を開催し、意見交換をした。

4. 研究成果

(1) 『出雲国造家文書』の再調査

昭和30年代に東京大学史料編纂所の村田正志氏が翻刻した重要文化財の軸装を再確認して誤記や脱字がないか確認するとともに、端裏書などの確認を行った。関東下知状や序宣などの文書名に誤りが発見されるとともに、「源頼朝下文」の再考や「関東下知状」の文書名を改めた。そのほか当時の技術では見ることのできなかつた紙背文書などの確認をおこなった。

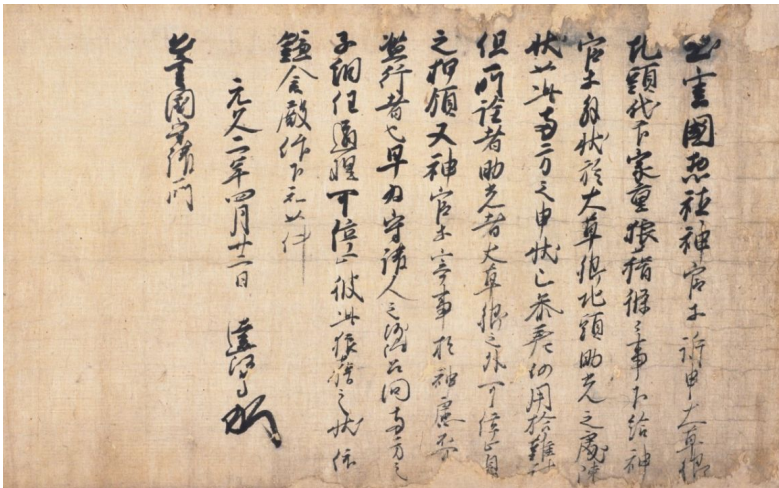


写真-1 軸装5号文書 元久2年(1205)4月22日関東下知状

(2) 新出文書の調査

原則として当主以外は立ち入りを禁じられていた蔵を、現当主北島健孝氏と共に確認したところ、昭和30年代の調査対象から漏れていた筆筈があることが分かった。平成30年8月23日から同月26日の調査で、鎌倉時代から戦国時代にかけての150点の新出文書(写しを含む)が、さらに平成31(2017)年3月5日から同月7日の調査で、更に100点の新出文書が発見された。村田正志氏が『出雲国造家文書』の中で「429通がほぼその全容である」と記していることから、それを覆す発見となった。

新出文書は宝治二年(1247)の「中兼久受取状並系図写」、弘安三年(1280)の「前備前守某奉書」、徳治三年(1308)の「泰孝讓状写」、元徳二年(1331)の「検校入道他二名連署讓状」など、鎌倉時代から戦国時代に及び、特に尼子氏の出雲支配や、その支配を継承した毛利氏関係のものが多い。

この文書群の研究協力者である島根大学名誉教授井上寛司氏の積極的な支援を得て整理を終え、令和2年(2020)3月17日に北島国造館で、朝日・毎日・読売・産経・山陰中央などの新聞各社と地元テレビ局に対して記者会見を行った。これらの文書は、島根県立古代出雲歴史博物館で令和2年(2020)4月24日から5月18日まで一部が公開される予定であったが、コロナ禍の影響で公開が中止となった。

新出文書の精査をおこなった結果、文書は鎌倉時代から戦国時代に及ぶことが判明した。内容としては、尼子氏を通じての幕府関係のもの、毛利氏を通じての豊臣政権関係のものなど多岐にわたる。その特徴は、宗教関係文書というより、在地を統括する武家文書を彷彿させるものである。戦国時代後期には本願など大社造営関係の宗教者の動きを示す文書も散見するようになるが、決定的に少ない。聖教や祝詞など寺社文書の特徴づけるものは、皆無とは言えないが、今回の調査では、あまり目に触れなかった。老中奉書などでの祈祷依頼などは、むしろ近世文書に多く視られた。

今回の調査では、古代・中世の出雲大社の具体的な祭祀が窺える史料は、発見できなかった。ここが伊勢神宮との差といえば差である。伊勢神宮は『延喜式』に一卷が設けられているように、皇室の祖神を祭る神社であった。どうしても、比重は伊勢神宮にかかったのである。「延暦両宮儀式帳」の選進も『延喜式』編纂のためであり、出雲大社程の大社であるにもかかわらず大社全体の祭祀を記述した文書は発見できなかった憾みはある。

一方今回の調査で、新出の中世文書が想定外の分量で発見されたことは、今回の研究の大きな業績といえよう。国造家に関する史料は非常に多く触目した。例えば、火継神事、新嘗会、遷宮などの記事が多く散見する。遷宮の記事には国造以下の装束が、詳細に記述されている。また、これまで、近世を遡らないといわれてきた新嘗会の記事は、応永三十五年(1428)の文書や天正五年(1577)の文書に確認され、中世にまで遡ることが確実となった。すなわち、今回の調査で判明したことは、国造家の史料が充実していることと、その史料が出雲の中世史を一変させるのではないかと推測されることである。

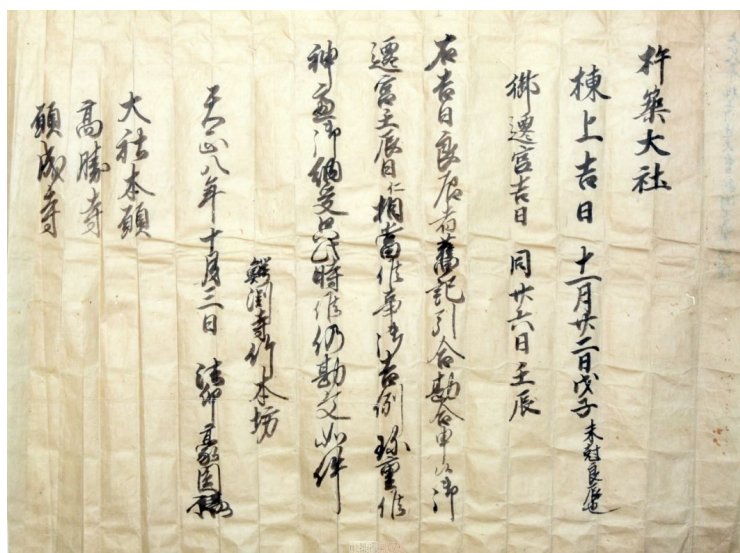


写真-2 新出 78 号鱒淵寺豪円勘文書 天正 8 年(1580)

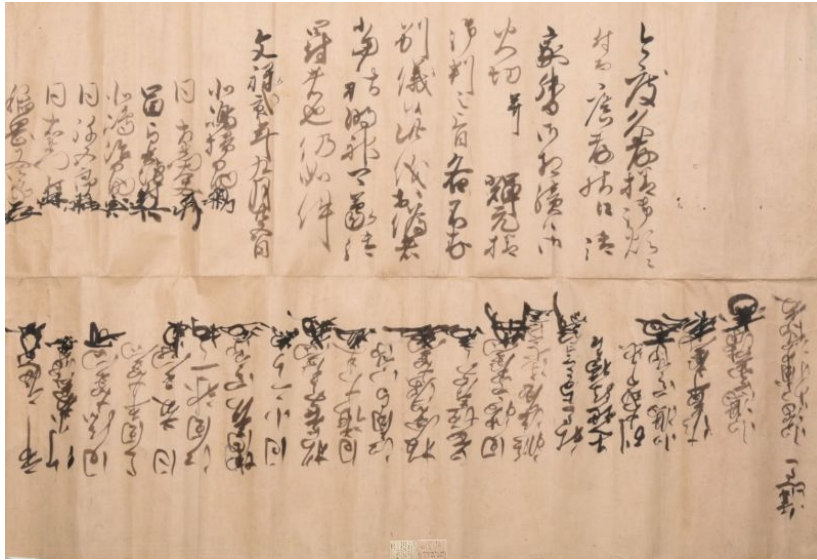


写真-3 新出 112号北島方上官等連署状 文禄2年(1593)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岡田 莊司	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 358
3. 書名 古代天皇と神祇の祭祀体系	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『新修北島国造家文書』として出版予定である。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	夏目 琢史 (Natsume Takakumi) (00747842)	国士舘大学・文学部・准教授 (32616)	
研究分担者	小倉 慈司 (Ogura Shigeji) (20581101)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡野 友彦 (Okano Tomohiko) (40278411)	皇學館大学・文学部・教授 (34101)	
研究分担者	岡田 荘司 (Okada Syouji) (60146735)	國學院大學・神道文化学部・名誉教授 (32614)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	井上 寛司 (Inoue Hiroshi)	島根大学・名誉教授 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関